

性に関する課題を教員間で把握・共有するための 実態把握シート活用に向けた取組

—— 特別支援学校における養護教諭からの性に関する指導に向けたアプローチ ——

和田 鮎菜¹

特別支援学校における性に関する指導の実施に当たっては、生徒一人ひとりの発達課題を把握することが求められる。しかし先行研究では、発達課題を把握・共有する具体的な指針や指標は見当たらなかった。本研究では生徒一人ひとりの性に関する課題を把握・共有するシートを作成し、その有用性を検討した。その結果、生徒の性の課題を把握し、教員間で共有することにおいてシートが有用であることが示唆された。

はじめに

文部科学省は、現代の子どもたちについて「肥満・痩身、生活習慣の乱れ、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患の増加、性に関する問題など、多様な課題が生じている」（文部科学省 2017 p. 1）と指摘しており、子どもの抱える課題の幅広さが読み取れる。

中でも性に関する問題に関連して、性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省会議(2020)は、令和2年度から4年度の3年間を性犯罪・性暴力対策の「集中強化期間」とし、教育・啓発の強化に取り組むこととしたことから、性に関する指導の充実が国として喫緊の課題である。これを踏まえ文部科学省(2020)は、「生命（いのち）の安全教育」を推進し、特別支援教育においては「障害の状態や特性及び発達の状態等に応じて、個別指導を受けた被害・加害児童生徒等が、性暴力について正しく理解し、適切に対応する力を身に付けることができるようにする」ことを目指している。

性に関する指導について、学習指導要領では主に保健体育科にその記載がある。『特別支援学校学習指導要領(平成31年公示)解説 知的障害者教科等編(下)

(高等部)』（文部科学省 2019 p. 77）では、保健体育科の指導に当たり、「発達の段階を踏まえること、養護教諭や生徒指導担当教諭など学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得て密接に連携・協力することなどに配慮することが大切である」と指摘している。

山田ら(2010)は、特別支援学校において、教員が性に関する指導について必要性を感じている一方で、児童・生徒の個人差が大きいことや、教材・資料が少ないことなどにより指導を進めにくい現状があることを示した。また、井澤ら(2020)は、特別支援学校における性に関する指導について、様々な発達段階に応じた具体的な指針がないことから、一人ひとりの児童・生徒に応じて内容を個別化・重点化する必要があることや、障害の程度や発達段階に応じた課題を明ら

かにし、その課題に基づいた指導目標を設定する必要があることを述べている。これらのことから、指導に当たって一人ひとりの児童・生徒の課題の把握が必要であることがわかる。

所属校の知的障害教育部門高等部に着目すると、在籍する生徒は知的障害の他、重複障害のある生徒もあり、障害の程度は療育手帳のA1からB2までと幅広い。性に関する指導については、日常生活における指導で取り組んでいるものの、昨年度は指導計画がなく、実状は見えにくかった。これを受け、今年度は3年次の年間指導計画が示され、集団指導の方向性が明確になった。しかし、生徒の発達段階や課題を踏まえた指導に向けたアプローチの具体的な方法は見えにくく、十分に一人ひとりの課題が把握できているとは言い難い。加えて、複数担任制や多様な働き方などを背景とした現状においては、指導内容をどの教科や場面で扱うかなど、指導に向けた教員間での共有は容易ではない。

筆者は、養護教諭として生徒の健康課題の早期発見につながるアプローチや日々の連携の重要性を感じていた。しかし、養護教諭の立場から、実際に生徒一人ひとりの課題を把握できる機会は決して多くなく、また、学級担任等との共有が十分にできているとは言い難かった。そこで、性に関する課題を把握・共有することをねらいとして実態把握シートを作成し、その記入を通して、生徒の性に関する課題を把握し、教員間で共有することで、一人ひとりの実態を踏まえた指導を行うなど高等部在学中の意図的なアプローチにつなげたいと考えた。

なお、本研究において、性に関連したという意味で使われる「性に関する」という表現は、「性の」という表現で統一する。

研究の目的

一人ひとりの性の課題を把握・共有することをねらいとして、性の課題の実態把握シートを作成し、その有用性を検討する。

1 県立鎌倉養護学校 養護教諭

研究の内容

1 研究の手立て

所属校教員を対象とした事前アンケートで、性の指導の実態や指導への思いについて調査を行う。その結果を受けて、実態把握シートを作成し、その記入を通して、生徒一人ひとりの性の課題の把握と共有を行う。その取組を踏まえて、実態把握シートの有用性を協議及び事後アンケートで評価・検討する。

2 取組の内容・結果と分析

(1) 事前アンケートの内容・結果と分析

性の指導について、実態や教員の思いを明らかにし、実態把握シート作成の参考とするため、アンケート調査を行った（表1）。

表1 事前アンケート調査の概要

対象	所属校知的障害教育部門高等部教員24名
方法	アンケートソフト（forms）
実施期間	令和4年8月31日～9月2日
調査内容	属性、性の指導の実施状況、障害のある児童・生徒の性に関する課題や指導についての思い
回答者数	19名（回収率79%）

性の指導の実施について、「全くしていない」「あまりしていない」と回答した教員が約半数を占めた。その理由として、「個人差が大きい」「性の指導についての知識が少ない」「指導を行うことで逆効果になるかもしれない」「性の発達段階を把握しづらい」に多くの回答があった。

障害のある児童・生徒の性の指導の必要性については、全員が必要と回答し、9割を超える教員が性の指

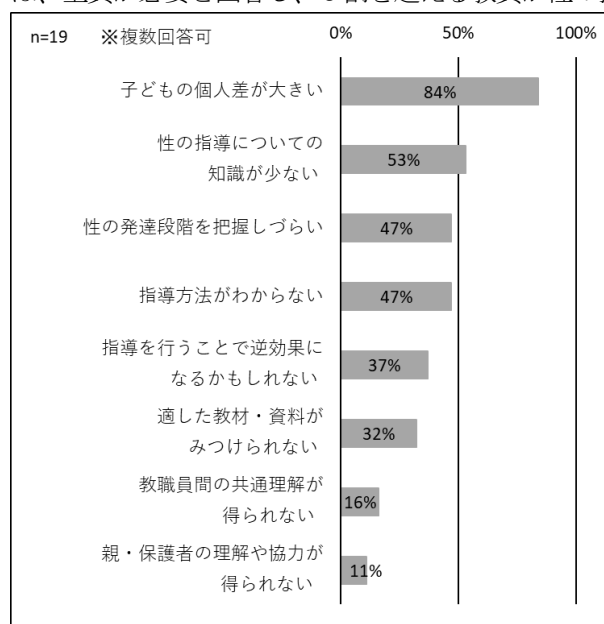


図1 性の指導の難しさを感じる内容

導に難しさを感じていることが明らかになった。性の指導の難しさを感じる内容として、「個人差が大きい」の回答が84%と突出していた。また、約半数が「性の指導についての知識が少ない」「性の発達段階を把握しづらい」「指導方法がわからない」を挙げた（図1）。

(2) 実態把握シートの作成

(1)を受け、生徒一人ひとりの性の課題を含めた実態を把握・共有することを目的としてシートを作成した。「心」と「体」について「今から」考えることができるシートという意味を込めて、「ここから実態把握シート（以下、実態把握シートという。）」と命名した。実態把握シートは文献を基に作成した（表2）。

表2 実態把握シートの参考文献

発行	タイトル	発行年
神奈川県教育委員会	性に関する指導の手引き	2022
茨城県教育委員会	性に関する指導の手引き	2016
松浦賢長、千葉県立柏特別支援学校	ワークシートから始める特別支援教育のための性教育	2018
大阪府立泉北高等支援学校	課題となる性行動のある生徒への指導・支援のための教材	2019

作成に当たり、まず各文献から課題や指導目標となる要素を抽出し、文献ごとに付箋の色を分けて書き出した。次に、神奈川県教育委員会「性に関する指導の手引き」（2022）が示す四つの指導内容を実態把握の四つの側面と捉え、抽出した要素を分類した。それらを、特別支援学校での指導経験がある指導主事3名の助言を得ながら表現や内容を整理し、実態把握シートの項目を決定した（表3）。

各項目には、A～Dの側面ごとに番号を振り、A-①などと特定できるようにした。項目の横には学級の生徒数分の記入欄を設け、A3サイズ1枚のシートで学級の生徒全員の実態が記入できるようにした。また、実態把握シートへの記入は、「○（十分達成できているもの）」「△（部分的に達成できているもの）」「✓（課題と考えるところ）」「？（不明なところ）」「◎（指導したもの）」の記号で統一した。

(3) 実態把握シートを通した課題の把握と共有

ア 概要

実態把握シートの記入は、筆者が必要に応じて補足説明をしながら、学級ごとに行った。養護教諭は担任等が話し合いながら作業する場面に加わり、実態把握等について共有した（表4）。

イ 実施した様子から

参加した教員は、「自分の体のことは部分的にわかっていることもあるが、異性の体は難しそう」「デート

表3 実態把握シートの構成

側面	分類	項目数	項目例（抜粋）
A. 体の 発育・発達	新しい命の誕生に関すること	6	③家族計画を考えることができる。
	二次性徴に伴う身体機能の変化とその対応	2	⑦男女の性器の名前と役割がわかる。
	男女の体の違い	2	⑩男女の体の成長や変化についてわかる。
	プライベートパーツと清潔保持	4	⑪プライベートパーツ（水着で隠れる部分と口）の場所がわかる。
B. 心理的な 発育・発達	生命に関わること	2	①自分の良さに気付き、大切にできる。
	心の変化とストレス対処	3	⑤望ましいストレス対処法を持っている。
	他者との関わり	3	⑦適切な距離感で人と関わるができる。
	自分の感情	6	⑨様々な感情の違いがわかる。
C. 恋愛・交友関係		8	④デートDVについて知っている。
D. 社会面	性感染症	1	①性行為でうつる病気があること、その予防や対応がわかる。
	性被害	1	②SNSなどで見えない相手とつながることや、不特定多数のものと性行為をすることの危険性がわかる。
	情報の選択	1	③間違った性情報や誘いに、適切な判断をして行動できる。
	安心・安全に過ごすためのルール	1	④自分の性別に合わせ、（トイレ・お風呂・更衣室など）どこを選択したらよいかわかる。
	自他の尊重	6	⑤自分の体の守るべき部分がわかる。

表4 課題の把握と共有の概要

参加者	所属校知的障害教育部門高等部教員 15名及び養護教諭2名
実施日	令和4年9月21日
所要時間	約1時間
実施学級数 ・生徒数	8学級・64名 （1学年3学級27名、2学年3学級 24名、3学年2学級13名）
実施内容	学級ごとに教員同士で話し合いなが ら、生徒一人ひとりの実態をシート に記入した。

DVという言葉は知っているが、内容はわかっていない」などと具体的な課題や指導場面・指導内容、過去の指導事例などを共有しながら記入を行っていた。

記入に当たっては、実態把握シートの「『十分達成できているもの』の“十分”がどの程度のものを指すのかが難しい」などと話され、身に付いた力を評価することの難しさが浮き彫りになった。

全クラスの記入した実態把握シートから、全体的な傾向として「?（不明なところ）」が多くつけられ、今後更なる実態把握が必要な項目が多いことがわかった。また、「✓（課題と考えるところ）」「△（部分的に達成できているもの）」が次いで多く、課題や指導が必要な項目の多さが見えた。

ウ 実態把握シート記入後の指導の検討

実態把握シートの記入を基にその後の指導を検討した教員からは、性の課題の個人差を踏まえると、個別指導が適切と考えられる部分が多いことや、実態把握シートで同じ記号が記入されても、生徒の状態像から同一の指導場面を設けることが難しいことなどが話された。また、指導計画の検討に当たっては、保護者を巻き込んだ十分な実態把握が必要であることも話された。

(4) 実態把握シートの有用性の検討

所属校教員との協議と事後アンケートの実施により、実態把握シートの有用性を検討した。

ア 所属校教員との協議

(7) 概要

研究の概要や事前アンケートの結果、実態把握シート作成のねらいなどを確認し、協議を行った(表5)。

表5 協議の概要

参加者	所属校知的障害教育部門高等部教員16名、養護教諭2名、教育相談コーディネーター1名、筆者
実施日	令和4年10月26日
協議方法	KJ法に基づく集団協議
テーマ	性の課題に着目する実態把握シートの有用性について

(4) 結果

実態把握シートの有用性について協議で出された意見は、三つの視点で整理できた。

○実態把握シートが有用と感じた点
・性の指導について考えるきっかけになる
・教員間で話し合うためのツールになる
・教員間の性の指導に関する意識が高まる
・性の指導項目がわかる
・一人ひとりの性の課題を具体的に把握できる
・性の課題を保護者と共有できる
○実態把握シートの記入に当たって困った点
・記入に時間がかかる
・項目が多すぎる
・生徒の実態と評価の一致に確信がもてない
・「達成できている」の基準がわかりにくい
○実態把握シートの記入から感じた性の指導の難しさ
・個人差に伴う指導内容の精選
・生徒の恋愛などの将来を教員がイメージすること
・小学校・中学校などの学習状況の把握

また、今後学校全体で性の指導に取り組むための方

策として、次の意見が出された。

- ・実態把握シートの活用（課題把握を基にした目標設定・記録の継続や引継ぎなど）
- ・学部内での方針や計画についての検討
- ・学校としての特色化
- ・いのちの教育週間などの実施
- ・日常的な指導の実施 ・指導形態の検討
- ・指導教材や指導実践の共有
- ・保護者と連携した実態把握や指導の実施

イ 事後アンケートの実施

(7) 概要

協議で出された意見を基にしたアンケート調査を行った（表6）。

表6 事後アンケート調査の概要

対象	所属校知的障害教育部門高等部教員・養護教諭 計26名
方法	アンケートソフト（forms）
実施期間	令和4年11月10日～11月14日
調査内容	性の課題に着目する実態把握シートの有用性について
回答者数	21名（回収率81%）

(4) 結果

実態把握シートを通した生徒の性の課題の把握について、約9割が「できた」「少しできた」と回答した。一方で、実態把握シートが性の指導の難しさの軽減につながったと回答した教員は約1/3に留まり、過半数が「どちらともいえない」と回答した。性の課題を教員間で共有することについては、全員が「できた」又は「少しできた」と回答した。

実態把握シートの性の指導への有用性については、9割以上の教員が肯定している。その理由として、「性の指導について考えるきっかけになる」「性の指導について教員間で話し合うためのツールになる」のそれぞれに8割を超える回答があった（図2）。

また、自由記述欄にて、「面談で保護者にもフィードバックでき、家庭での様子を知ることができた」「どのような性の指導をすべきかがわかり、個に応じた性の指導をしていきたいと感じた」「学級や学年としてどのように取り組んでいくか、どの部分に焦点を当てるべきかを把握するのにとても良かった」などの記載があった。

一方で、実態把握シートの記入に際しては7割が何らかの困りを感じており、その内容として、「生徒の実態と評価の一致に確信がもてない」「『達成』の基準がわかりにくい」のそれぞれに7割を超える回答があった（図3）。

本研究の取組を通して性の指導の難しさを感じた教員は9割を占めた。その内容として、「個人差に伴う指導内容の精選の難しさ」が83%と最も多く、その他

には「個別指導の自然な行い方（関係性や機会を考慮する必要性）」などの回答があった（図4）。

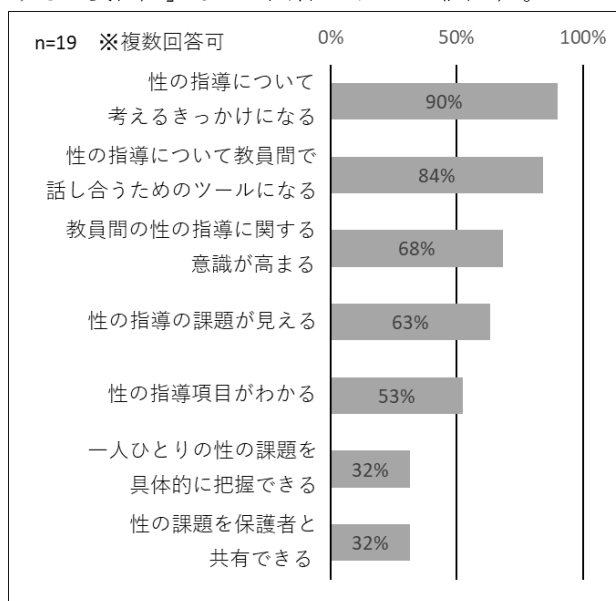


図2 実態把握シートが有用な理由

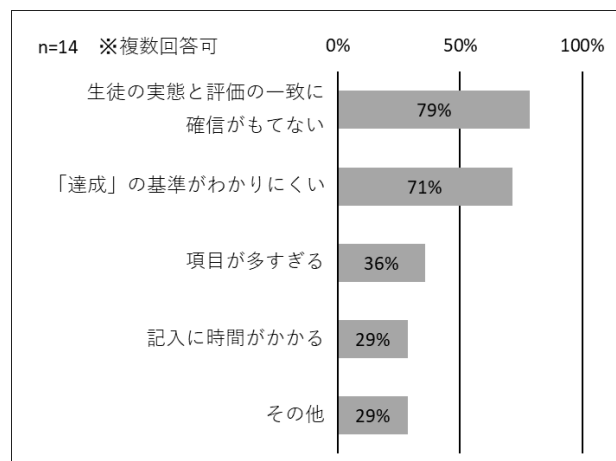


図3 実態把握シート記入で困った内容

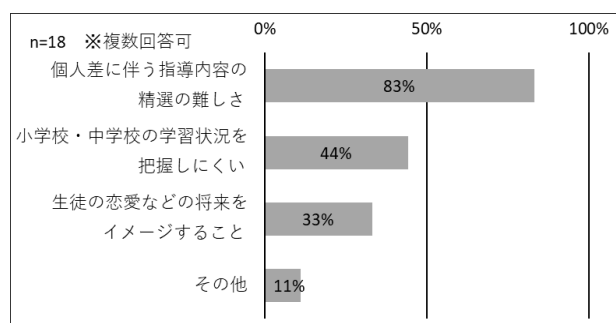


図4 性の指導の難しさを感じた内容

3 研究の考察

(1) 実態把握シートの有用性について

事前アンケートの結果から、所属校教員は生徒の性の課題及び指導の必要性を感じているものの、指導の難しさも感じており、十分な指導に結び付いていないことがわかった。本研究では性の課題を把握・共有することを目的とし、実態把握シートを作成した。協議

と事後アンケートの結果から、一人ひとりの性の課題の把握と教員間での共有において実態把握シートが有用であったと言える。

井澤ら（2020）は、障害の程度や発達段階に応じた課題を明らかにし、その課題に基づいた指導目標を設定することの必要性を述べている。本研究の取組である実態把握シートを通じた性の課題の把握と共有はその一助となると考える。持つべき視点を1枚のシートに可視化したことで、指導に向けて生徒一人ひとりの実態に目を向けることにつながったのではないかと。事前アンケートの結果において担任が指導の難しさとして感じていた個人差の大きさについても、実態把握シートを使用することで、漠然としていた個人差が明確になり、より具体的な課題の把握につながることに寄与するであろう。

また、村川（2021）は、現在課題として見られないことが授業における性の指導から省かれる現状を指摘している。つまりは、一人ひとりの実態に目を向けることは、集団の中では目立ちにくい、見過ごされる可能性のある課題の発見につながると考える。

本研究の取組から、教員間での課題の共有や指導に向けた教員の意識の向上が見られた。永谷ら（2014）は、子どもに関わる教職員の共通理解を図り、同様に指導を行うことが課題であることを示している。本研究において、共有のための時間・場と実態把握シートを設けたことが、教職員の共通理解を促進し、一部の教員にとっては性の指導の難しさの軽減につながったと考える。

(2) 実態把握シートの使用から見えた課題

ア 生徒を主体とした連携の在り方

本研究では、教員から見た実態把握に留まり、生徒本人や保護者からの実態把握まで至らなかった。これが、生徒の実態と教員の評価が一致しているのか、確信が持てないことや、指導計画を立てる際の難しさに関係していると考ええる。門下（2019）は学校における性の指導の課題として、本人不在で語られることが、教員や保護者が一方的に問題と決めつけたり、必要と決めたりする内容しか指導されない危険性をはらむと指摘している。このことから、生徒の困りや学びたいことを把握する機会が求められる。また、井澤ら（2020）が、指導計画や内容、生徒の家庭での様子などについて保護者と共通理解し、連携しながら進めていくことが大切であると述べていることから、入学後の早い段階から必要に応じて指導に取り組めるよう、入学時点での情報収集を位置付け、保護者と実態把握や指導後の経過の見守りなどに協働で取り組んでいくことが重要となるだろう。正確な実態把握につなげるためには、複数の視点で確認を行うことや、高等部入学前の性の課題や指導について保護者や出身中学校等の教員と共有を図る機会を設けることの必要性が見えた。

イ 達成基準の明確化

事後アンケートの結果から、「『達成』の基準がわかりにくい」という課題が明確になった。井澤ら（2020）は、特別支援学校学習指導要領において、具体的な指導内容が明記されていないことから、生徒の発達段階に応じた指導内容を各学校で考える必要があると述べている。このことから、実態把握シートの項目に、達成段階を記載しておくことが有効ではないかと考える。例えば、実態把握シートC-④「デートDVについて知っている」について、Ⅰ）言葉を知っている、Ⅱ）内容を知っている、Ⅲ）デートDVの場面においてその状況が良いものではないとわかる、などの段階を踏んだ達成基準を参考に示すことができれば、それぞれの生徒の指導内容や目標が検討しやすくなるであろう。また、項目によっては客観的に評価ができるような工夫が求められる。例えば、実態把握シートA-⑪「プライベートパーツの場所がわかる」は、「プライベートパーツの場所を絵を見て指し示すことができる」などに変更することが考えられる。

ウ 意図的な指導の具現化

本研究の取組では実態把握シートから課題を考えることはできたものの、計画を踏まえて具体的な指導内容や使用教材をイメージするには至らなかった。実態把握シートの指導項目について、目標を達成するために有効な指導の手立てを養護教諭が把握しておき、担任や保健体育科の教科チーム等と連携した指導につなげる必要がある。他にも、実態把握シートの項目に、年間指導計画に含まれるもの・含まれないものなどを予め明記することや、指導計画を検討する前に実態把握強化週間を設定するなどの取組を行うことで、今後の指導を検討しやすくなるのではないかと。また、実践事例の積み上げも有効であろう。

(3) 養護教諭の役割とアプローチ

鎌塚（2022）は、保健室の機能として健康情報センター的役割があると述べている。学校保健における中心的立場を担う養護教諭として、児童・生徒の性の課題の把握を経て、学校としての指導計画や方針の設定に関わり、それを基にした指導の実施が行われるよう担任等と連携して取り組む必要がある。また、性の指導に関連した行事（いのちの教育週間など）の設定や情報発信などを通して、性の指導に学校として取り組むことで、児童・生徒、保護者、教職員が意識して性を大切に考えることにつなげていきたいと考える。

研究のまとめ

1 研究の成果

本研究で作成した性の課題の実態把握シートは、生徒の性の課題の把握や、教員間での性の課題の共有、指導に向けて教員の意識を高めることに有用であった。

具体的には、課題を記録し視覚化し教員間で実態を共有するための媒体となる他、指導計画を考える上での具体的な指導項目の可視化につながった。また、実態把握シートの使用は、性の指導の難しさの軽減にもつながることが示唆された。

2 研究の課題と今後の展望

本研究の取組から見えた課題として、性の課題の実態把握を生徒本人や保護者を含めて行う必要性が明らかになった。また、実態把握シートに関連して、段階を踏んだ達成基準を示すことや客観的な表現への変更などの改善が必要である。さらに、実態把握を踏まえて指導を検討するに当たって、具体的な指導内容や使用教材を明確にしておくことで、指導の難しさのより一層の軽減を図ることが求められる。

本研究では指導の実施を見取ることができなかったが、実態把握を年間指導計画に組み込むことで、指導の一環として実態把握が位置付くであろう。さらに、個別教育計画と連動させた実態把握と指導を行っていくことが求められる。これらの取組を通して、在学中の3年間を見通したアプローチにつなげていきたい。

おわりに

本研究を進めるに当たり、御協力いただいた県立鎌倉養護学校教職員をはじめ、本研究に関わっていただいた全ての皆様に深く感謝申し上げます。

[指導担当者]

橋本 綾² 馬場 健² 服部 潤子³

引用文献

- 文部科学省 2019 「特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（下）（高等部）」ジアース教育新社 p. 77
- 文部科学省 2017 「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～」

参考文献

- 茨城県教育委員会 2016 『性に関する指導の手引き』
https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakko_u/karada/hoken/sei/ikkatsu.pdf（2022年12月6日取得）
- 大阪府立泉北高等支援学校 2019 『課題となる性行動のある生徒への指導・支援のための教材』
https://www.osaka-c.ed.jp/semboku-y/07-chiiki/seini_kansuru_shidou.html（2022年12月6日取得）
- 神奈川県教育委員会 2022 「性に関する指導の手引き

～『生命（いのち）の安全教育』との関連から考える～人権 防犯 情報 性 平成29年・30年告示 学習指導要領対応版」

https://www.pref.kanagawa.jp/documents/86921/seitebiki_all_zennhann_3.pdf（2022年12月6日取得）

性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省会議 2020 「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」

https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/seibouryoku/pdf/policy_02.pdf（2023年1月12日取得）

文部科学省 2020 「生命の安全教育 指導の手引き」
https://www.mext.go.jp/content/20210416-mxt_kyousei02-000014005_7.pdf（2022年12月16日取得）

井澤信三・大江孝則・谷川毅・村松宏記・原康行・山本真也 2020 「知的障害特別支援学校高等部における軽度知的障害及び発達障害生徒への性教育に関する文献検討」（『兵庫教育大学研究紀要』第56巻）pp. 71-81

門下祐子 2019 「知的障害児・者の性教育に関する研究動向」（『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』別冊第27号-1）pp. 13-24

鎌塚優子 2022 「子どもの性に対する養護教諭の取り組み」（『こころの科学』通巻223号）日本評論社 pp. 39-43

永谷智恵・工藤恭子・矢野芳美・岩佐有子 2014 「高等養護学校における性教育に対する教諭の認識」（『北海道文教大学研究紀要』第38巻）pp. 37-44
https://do-bunkyo-dai.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=368&item_no=1&attribute_id=19&file_no=1（2022年12月28日取得）

松浦賢長編著 千葉県立柏特別支援学校著作 2018 『子どもが変わる 保護者が変わる ワークシートから始める特別支援教育のための性教育』ジアース教育新社

村川歩里・牛山道雄 2021 「特別支援学校における発達段階に応じた性教育の現状と課題 ―非養護教諭と養護教諭のインタビュー調査を通して―」（『京都教育大学総合教育臨床センター特別支援教育臨床実践拠点年報』第2号）pp. 32-40
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/Ccce/48a840a764b3cf04675b39b2a43609028c374193.pdf>（2022年12月19日取得）

山田晃生・水内豊和 2010 「特別支援学校における性教育に対する意識と実態―国立大学法人の附属特別支援学校の教諭ならびに養護教諭を対象とした質問紙調査から―」（『富山大学人間発達科学部紀要』第5巻第1号）pp. 49-64

①氏名欄にクラスの生徒の通し番号を記入します。②各項目について、それぞれの生徒に以下のあてはまる印をご記入ください。 ○：十分達成できているもの、△：部分的に達成できているもの、✓：課題と考えるところ、？：不明なところ、◎：指導したもの			チェック日：令和4年 月 日							
側面	分類	項目	クラス通し番号							
A ・ 体 の 発 育 ・ 発 達	新しい命の誕生に 関すること	①月経・受精（性行為）によって妊娠が可能になることがわかる。								
		②妊娠から出産までの過程がわかる。								
		③家族計画を考えることができる。								
		④避妊の方法がわかる。								
		⑤人工妊娠中絶とその体への影響がわかる。								
		⑥妊娠などについて相談する場がわかる。								
	二次性徴に伴う 身体機能の変化と その対応	⑦男女の性器の名前と役割がわかる。								
		⑧月経や射精などについて適切な対応（手当て・処理・記録など）ができる。								
	男女の体の違い	⑨男女の性別による「男の子らしさ」「女の子らしさ」などの決めつけをしない。								
		⑩男女の体の成長や変化についてわかる。								
	プライベートパーツ と清潔保持	⑪プライベートパーツ（水着で隠れる部分と口）の場所がわかる。								
		⑫プライベートパーツの機能がわかる。								
		⑬プライベートパーツの清潔保持ができる。								
		⑭睡眠・食事・排泄・洗顔・歯みがき・手洗いなど、健康に過ごすための生活習慣が身に付いている。								
B ・ 心 理 的 な 発 育 ・ 発 達	生命に 関わること	①自分の良さに気付き、大切にできる。								
		②相手の良さに気付き、大切にできる。								
	心の変化と ストレス対処	③年齢に伴い、人との距離感や関係性が変化することがわかる。								
		④不安や悩みがある時、信頼できる人に相談できる。								
		⑤望ましいストレス対処法を持っている。								
	他者との 関わり	⑥他者の表情を見て、相手の気持ちを察することができる。								
		⑦適切な距離感で人と関わることができる。								
		⑧人の気持ちを考えた意思決定・行動選択ができる。								
	自分の感情	⑨様々な感情の違いがわかる。								
		⑩感情には名称があることがわかる。								
		⑪感情には強弱の程度があることがわかる。								
		⑫自分が不快なときの感情の表出のクセがわかる。								
		⑬感情の変化に伴う体の変化（表情の変化・涙が出る）がわかる。								
		⑭適切な感情表出ができる。								
C ・ 恋 愛 ・ 交 友 関 係	①思春期は他者へ恋愛感情を抱くようになることを知る。									
	②恋愛相手と、お互いを知りながら段階を踏んで関係性を作っていくことが大切だとわかる。									
	③恋愛相手とお互いの気持ちを伝え合いながら思いやりをもって関係を作っていくことが大切だとわかる。									
	④デートDVについて知っている。									
	⑤恋愛関係においても、エチケットやマナーが必要なことがわかる。									
	⑥性行動はお互いに同意が必要なことがわかる。									
	⑦性行動の結果をふまえ、責任ある行動とは何かがわかる。									
	⑧恋愛相手との関係で嫌だと思う時に、その気持ちを伝えて良いとわかる。									
D ・ 社 会 面	性感染症	①性行為でうつる病気があること、その予防や対応がわかる。								
	性被害	②SNSなどで見えない相手とつながることや、不特定多数のものと性行為をすることの危険性がわかる。								
	性情報の選択	③間違った性情報や誘いに、適切な判断をして行動できる。								
	安心・安全に過ごす ためのルール	④自分の性別に合わせ、（トイレ・お風呂・更衣室など）どこを選択したらよいかわかる。								
	自他の尊重	⑤自分の体の守るべき部分がわかる。								
		⑥他者のプライベートパーツも大切なことがわかる。								
		⑦人前で自他のプライベートパーツを触らない。								
		⑧マスターベーションをするときに適切な空間を選択することができる。								
		⑨体の守るべきところを見られたり触られたりした時は我慢する必要はないとわかる。								
		⑩体の守るべきところを見られたり触られたりした時はどうすべきか（大声で叫ぶ・すぐ逃げる・知らせる）わかる。								